

笑顔のその先に

少人数制レクリエーションによる リスクコントロール

介護老人保健施設 アゼリア
ケア部門 1F 認知症専門棟

発表者：大谷信之

協働：大橋・長嶋・大西・渡部・南部

【はじめに】

所在地：東京都昭島市

入所：146床

1F：認知症専門棟

2F～3F：一般棟

通所：50名定員（予防：10名定員）



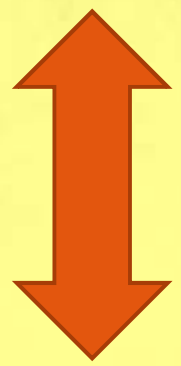
～認知症専門棟での処遇～

ご利用者



顧客満足
心身向上
維持改善

ニーズ
生の声
事故
その他

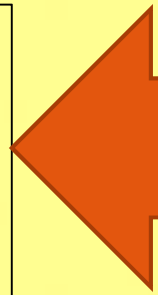


創意工夫
気づき・発見
不利益事項
その他



内部プロセス

他職種協働
継続的改善
年間計画
制約条件
業務改善
アセスメント
その他



個人への働きかけ

グループへの働きかけ

職員

【目的】

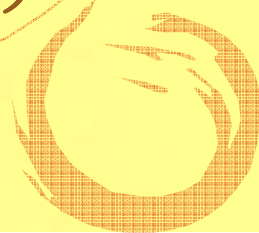
- 施設生活をより活気的に過ごせる。他
- 小グループ制活動によるフロア内の事故が減少。
- 特にフロア評価で事故リスクが高い方, 3名を注視。
- 活動場面, 時間の増加によるフロア内の活性化。

【対象者】

- 認知症専門棟のご利用者全員。
- 高リスク3名を選出
(他者トラブル+転倒 徘徊+転倒・歩行不安)。

【測定期間】

- 事故件数を期間中と取り組み前(同月期間)で比較。
- 2013年12月~2014年8月(9月現在継続)



【方法】

(活動)

- 少人数性による活動グループを増やす。
- ご利用者主体の活動。
- フロアミーティング(月/1)により活動評価。
- フロア内チーム活動による活動評価と改善策の策定。
- 取り組みにおけるフロア内の周知、啓蒙活動。
- 面会時の家族との関わり重視による協力依頼。

(測定)

- リスクマネジャー、サービス品質検討委員会による施設内事故件数及び重傷事故一覧の推移の結果を受け検証を実施。
- リスクマネジメント委員会からの助言や指導に基づく改善活動。

取り組み前後、それぞれ6ヶ月の期間で測定・分析

12月



1月



2月



4月



5月



6月



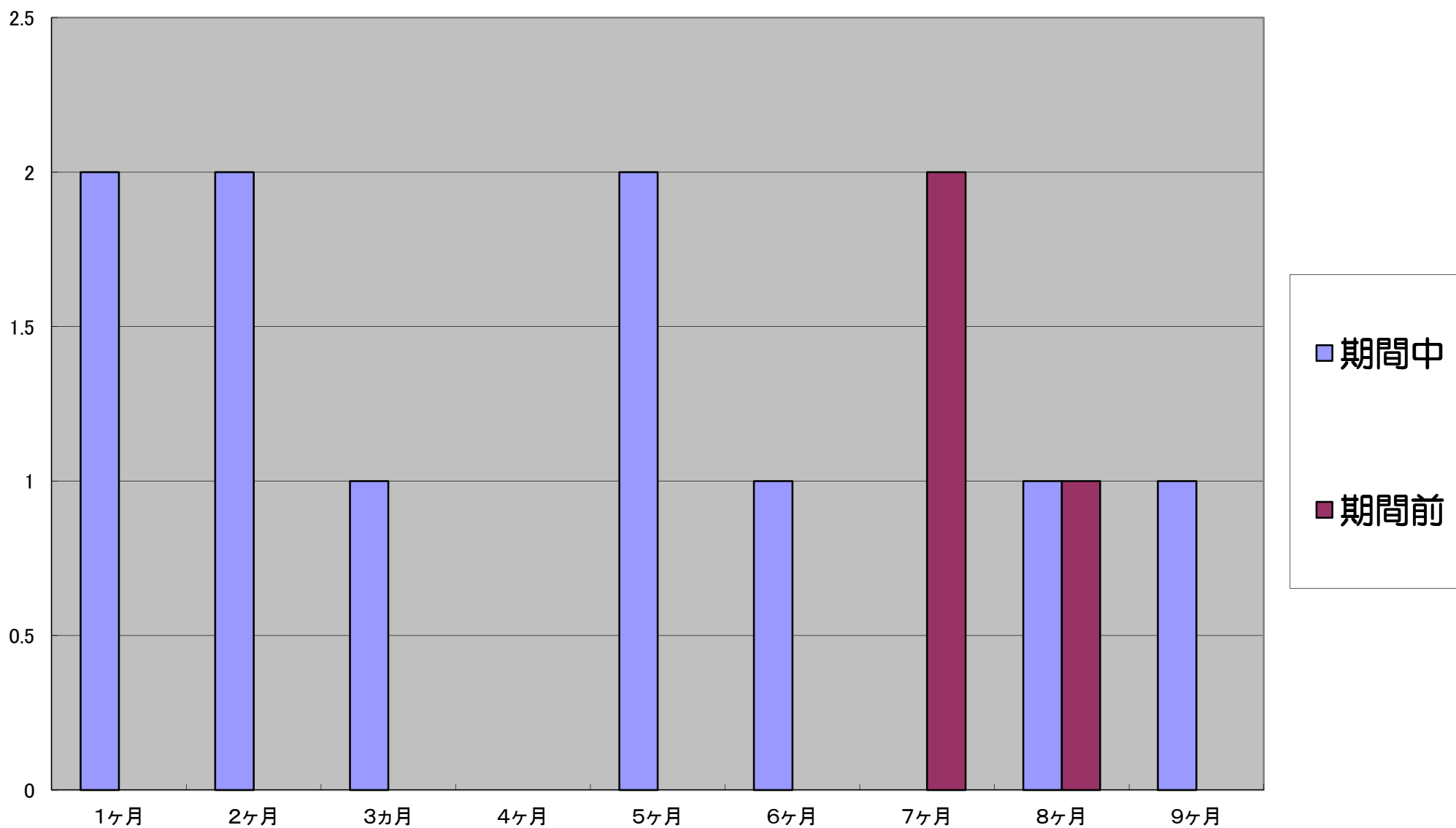
7月



活動時の様子

【結果①】

フロア内重傷事故件数結果

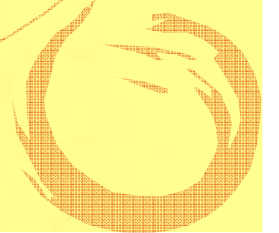


【結果②】

- 取り組みによるフロア内の事故減少には繋がらなかった。
- 重症事故減少には繋がらなかった。
- 注視対象の高リスク者3名においても同様に事故が発生した。
- 結果より、取り組みとリスク管理の因果は無いと判断。

【考察&課題】

- グループ活動は職員1名～が担当。
これにより常時見守りを要する利用者に対しての即応が困難。
- 複数のご利用者対応中に個人が離席すると見逃す場合あり。
- インシデントの有効利用。
- 職員が点在していると、発見までに時間を要する事有り。
- グループ活動実施時間と業務プロセスのバランスを見直す必要有。
- ご家族の参画をどのように進めていくか。



【まとめ】

- 前回～今回の経過から、よりフロア内は活気が出ている。
- 今回はリスクの視点から検証を行った。
- 日頃の気づきを集約しアウトプットとして活動に取り入れる。
- 本活動を職員のご利用者に対する意識付けも担っている。
- お互い安心出来る関係作りを今後も目指す。

本活動は・・・

- 活動自体は活発：フロア内行事、イベント共に拡大。
- イベントの為の事前活動も活発。

（前回からの課題事項）

- 参加率、参加による効果確認の検証。
- 長谷川式などを用いての認知度の変化。

（今回の課題事項：リスクの視点から・・・）

- リスクの視点からは、考察に記載の通り。
- 期間中の要介護度等との因果関係。
- その他。

（今後の展望）

- 顧客満足の視点からの検証。

